

# PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

## 今の時代の大人

高知ボランティアビューロー  
所長 シモンズ・レオナルド



島、長崎に於ける原爆の破壊と被害は、戦争の非道さ、恐るべき命の殺戮と、残骸を全世界に示すと共に、人間の尊厳と平和を守る為に、戦争の絶無を訴えている。

今、私達の住んでいる社会の中で、平和、権利、解放、平等、等の問題については、いつでも非常に大きな課題としてとりあげられ、それぞれの立場から声を大きくして主張されている。

命を守り、又延命の為に医学や、手だては近來とみに著しく発展して、今や日本では世界一の平均年齢を数えることになった。広

うか？それは一言で言えば、人工妊娠中絶という名のものに、闇から闇に葬られる痛ましい胎児の存在である。

日本では合法的という名のものに、産科病院の手術室で、又、或る国では滅法的、非合法的に隠された場所、又、或る国では国外に逃れて迄も、数えきれない程の声なき胎児が、いつも簡単に大人達の横暴、得手勝手さ、又無知などによって処置(こんな言葉があつてたまるか!)されている。

人はみな命は地球よりも重い」と口をひらけば言う。まことにその通りである。初めに神は人を御自身にかたどられて創られた。そしてこれをよしとされた。このかぎらない神の愛のたまもの、神秘にみちた人間の命、を私達はどの位に感知しているだろうか？結婚は神の創造のみわざに参加すること。何ん

とすばらしいことであるうか。この神秘的な体、神秘的な命、更に恵みを受けてあらたな命が誕生してゆく、この喜びと感動は、なにをもつて神に感謝し、誉めたたえたらよいか——その言葉を知らない。

或る日、私達は、登校拒否を、性の体験をもつた中学三年の女の子と初めて出会った。そして共に「沈黙の叫び」のビデオを見た。それはまことにせまい、しかしながら一番安らかな母胎の中で育ちつつある小さな胎児が、中絶手術によって突然抹殺されたようとした時のビデオであつた。その時、この小さな命は、その危険を予感して一生懸命鉗子から逃げまどつていた。悲愴と、胎児は口をあけて叫んでいた。私達は非常なショックを受けたが、わけても娘にとって大きなものであつた。

何故、大人はこんなひど

いことをするのか。こんな大人を、どうして信じることが出来ようか？もともと親に対して不信のかたまりであったには違いないか。私は一体なんだろう？私は何の為に生まれてきたのだろうか？私も、このようにつぶされる命だったのではなからうか？私の性の体験は一体なんだつたろうか？非常に複雑な気持ちが出来し、やがて凝縮し、そのあと呆れ心がつづいた。この娘は今まで人間の基本的価値について感じたこともなければ、従って尊重もなく、生きる未来像もなかった。娘のシヨックは強烈で、その魂をゆすぶった。

子供には生れる権利があり、親を持つ権利、そして健全な環境（自然と心身両面）の中に育つ権利をもっている。今の時代の大人や親達が命の神秘を粗末にし、又、その命を容易につぶす

ことを認めるならば、どうして子供達が、その命を保ち、愛の中に生きることが出来るだろうか？それは生物的な命を奪つと共に、精神的な命をも失ってしまつ。

ボランティア・ビューローの窓口を通して、私はさまざまな問題、相談に出会う。中でも未婚の母、非行のレットルのはられた少女、若者を相手する時、一面平和そうに見える社会の裏面で、許しがたい中絶の闇世界が現存し、その戦火の中にほんろつされる少女達の存在、そして葬られてゆく胎児の命を、無視することが出来ない。その為にもボランティア・ビューローの存在は重要な役目をもっている。

## アダルト・レイプ

### （強姦）と妊娠

強姦による妊娠について話す時、考慮すべき大切な点がいくつかある。

例えば、次のような質問に大抵の人ならどう答えるだろう。強姦されて妊娠する確率は極めて低いが女性の立場から言って、どのように妊娠してしまふ人がより不幸であるという根拠は何か。

ほとんどの人は、ほとんど何も考えずに、「そうね。勿論、妊娠したという事実が最も重大な問題でしょう。」と言つことだろう。本当のことを言つと、これは真実ではない。良い研究が示すところでは、彼女にとって最も不満なのは、妊娠しているという事実ではなく、どのように、他の人が彼女に接するかである。

これはもっともな考え

である。真実だとすると、これは、我々が住んでいる社会の恐ろしい告発といふことになる。私達は、同情と愛情をもってこれらの不遇な女性達に接しているだろうか。彼女達を私達の家、あるいは腕の中へと招いているだろうか。彼女達が必要としている支えとなつてあげているだろうか。さもなければ、我々は、これらの研究が示すように、犠牲者達に対して軽蔑と疑念をもって接しているのだろうか。あまりにしばしば、犠牲者を責めて「きたのではないだろうか。もしそうであれば、我々は、最も根深いところで、当然すべきことを怠つたことになる。

何故、これがそれほど重大なのか。それは、強姦の犠牲者が、自分のせいではなく起きてしまったことに對して非難されるなどということは、絶対にあるべきでないからである。さらに、今までの例から言つて、もし私達がその犠牲者に慈悲、愛情、優しさ、そして思慮をもって接した場合、彼女が中絶する確率はずっと低くなっている。

強姦について、今になつてやっと論じられるようになった分野が、もう一つある。もし中絶を受けると、その女性は後にどのような反応をしているか、という点である。核心となる事実、十年前ならばほとんどの人が思いつきもしなかつたものだが、今やつと、諦らめた女性達、この場合で言えば赤ん坊を中絶した女性達によつてはつきり思い知らされつつある。それは、次に述べる通りだ。

レイプとは、何か、彼女に對して、為される行為である。もし犠牲者が慈悲、同情、愛情をもって接せられれば、彼女は往々にして、

後からほとんど、又は全く自責の念に駆られることもない。また、(誰もかといふわけではないが)そのレイプが全く彼女自身のせいではなく、むしろ、彼女に対する完全に不当な攻撃であるという事実を、十分受け入れられるようになるかもしれない。

しかしながら、もし彼女が中絶を受けるとその結果は全く違ってくる。これは、彼女によって、大変慎重に、他の人に対してとられる行為である。

彼女は、中絶を受けた後、しばしば罪悪感を背負うことになるだろう。これは、他の場合の中絶の後に女性達があまりに多く経験する罪悪感に似ている。レイプを受けた女性は、二つの思い出のどちらかを持つことになる。それは、「私は愛しいことをしたのだ。この赤ん坊を産み、彼に生命を与えたのだから。」あるいは、「私は自分

の赤ん坊を殺した。」という思い出である。これに一致する生物学的事実には、強姦によって妊娠してしまった女性が、少なくとも無意識のうち常に理解していることがある。しかしながら、彼女達は全くこの事実を気にしていないようだ。それは、簡単に一言で言えば、「その赤ん坊は、半分は彼女のものである。」という事実である。

そう、これは「レイピスト(強姦魔の子供)であるが、同時に彼女の子供でもある。レイプにより妊娠した女性は、直観的にこれを知るが、彼女にアドバイスをする無慮な男性達や他の女性達は、あまりにこのことに気がつかぬことが多いようだ。彼女にとつて否定できないこの基本的な生物学的事実には、彼女が中絶を受ける時に抱えるであろう罪悪感

の荷をさらに重くし得るし、実際にそうなることがしばしばある。これに関連する他の要因として、「その子を生涯毎日目にする」という事実

に耐えられない女性もいるということがある。彼女達は、「その子を育てるなんて、自分には耐えられないだろう。」と感じるのだ。これは、私達にも理解できる。しかしながら、同時に明らか事実として、文字通り何百人、何千人もの人が、その子を引き取って生涯愛そうと切望し、腕をさし伸べている。その赤ん坊が暖かい家庭に引き取られることもあるのだから、このような状況で子供を産むということがその子をそばに置いて育てることとに等しいという公式は、決して立てるべきでない。

ほとんどの人が何故か、強姦によって妊娠した女性には可能ならば必ず中絶を受けるとすぐに考

える。本当のところ、これも真実でない。強姦による妊娠で、中絶が自由に利用でき、提供されていて、又、思いやりのある助けがあつたとすれば、半数の女性しか中絶を望まないであろう。興味深いでしょう。その通り。そして私は、これはその問題を抱える女性にとつて、本当にうれしいことだと思つた。

時折耳にする、あまり重要でないが興味深い説で、死刑について関連しているものがある。私達はこの生命保護(ライト・トウ・ライフ)運動において、関心の対象を無実の生命を保護することに限定するため、死刑についての公式な立場を明らかにしていない。しかしながら、もし私達が普通の聴衆に向かつてそのうち何人が死

刑に賛成するかを聞けば、全人口にほぼ比例するよ

——賛成の人もいれば反対の人もいるはずだ。一方、もしその質問をさらに突っ込んで、「あなた方のうち何人がレイピストに対して死刑を課すべきだと思つてしょう。」と聞いたとしたら、その数はずつと減つて、時にはゼロになるだろう。次に、こう質問するとよい。「あなたが強姦の罪に対して死刑を望まないと云つたら、その強姦によつて宿つた罪なき子供に対して死刑を望むでしょうか。」興味深い説だと言えよう。考えさせられるものがある。

しかしながら最後に、他の全ての説に影を投げかけている。もともと論議に話を戻そう。初めの論議とは、はっきりして清潔なので、それが全てを語つてしまふ。

私達は、父親の罪のために、無実の子供を殺すべき

だろうか。

「じらんくたい。」

私たちは今にも消されようとしている死に直面した胎児の声なき叫びを見ることができません。」

(B・N・ネイザンソン)

胎児からのS・O・S

人工妊娠中絶に対する賛否は今や世界中で最も激しい論争の一つとなつています。今回、超音波診断装置を用いて、中絶される胎児の胎内での反応を映像にとらえ、「沈黙の叫び」として公表されたことから、論争は更に加熱しています。

ト

あなたの結婚前の性生活についてもう一度考えてみてくださいませんか。

デートは、たくさんの方達を知ることによって成長するためのものです。

## 中絶反対運動に望む 二つの項目

ここ数年来、臓器移植の問題と絡み「人間の死」に対するマスコミはじめ世界一般の関心が高まってきました。二月にはこの問題、「いつ人間の生命が終るのか」についての一応の医学的な統一見解も出されました。「脳死」が充分社会的な問題になった今、「いつ生命が始まるのか」に対して、私達はもっと目を向けなければいけない時期にきていると思えます。つまり、この根本的な問題に対して、誰もが納得するような統一見解を作るべきだと思えます。受精した瞬間から人間なのか、心臓が動き出す時からなのか、それとも脳が活動を開始した時なのか。逆にいえば、コンドーム、ピルなどの避妊具による避妊は

殺人なのか、単なる調節なのか。この問題について、脳死の定義と同じく、万人が納得する定義を与える事が、今日の中絶反対運動の出発点になるうかと思えます。

次に必要なのは若年層、特に中学、高校生に対する教育です。これは以前から同じ事がいわれ続けてきて、今だに何ら進歩のみられない問題です。「おしべとめしべの受粉」からいきなり「赤ちゃんの育て方」に入るような教育しか受けていない私達にとって、中絶反対の話は単なる感情論に過ぎません。きちんと体形だった性教育をしなければ、これから十代の妊娠中絶は増え続けるでしょう。これをないがしろにしたままでの「養子縁組」運動など本末転倒だといわざるを得ません。

これら二つの根本にあるのは、「私達一人一人の

活動」の大切さだと思いません。今、私達に必要なのは、同じ意見を持つ「閉じられた世界」の中だけで議論することではなく、マスコミに向かつて、政治に向かつて、広く世間に向かつて主張することではないでしょうか。「平和に生活したい」という思いが暴力団を追放し、数人で始まった「捕鯨反対」の動きが世界を動かした事例をみるまでもなく、私達一人一人の活動が輪になって、それが広がってゆけば目的は必ず達成されると思います。



高知大学理学部二回  
森田明男

## 生命力

日本プロ・ライフ・

ムーブメント代表者

ノボトニー・ジェリー

OMI

このむ(む)グラムの赤ちゃんはたった二十一週間しかお母さんのお腹のなかにはいませんでした。生まれてから三週間後にとつた写真は全世界でものすごく有名なものです。腕にはまっている輪は看護婦さんの結婚指輪です。体の大きさがよくわかります。一生懸命生きている姿です。ここで私はこの写真によって大事な質問をします。この生きているものは私達と同じような人間でしょうか。それから、生まれる前の日はどう思いますか。人間ですか、じゃないですか。

て、非常に興味深い意味となります。四十五年前では、胎児が子宮の外で生きるのには妊娠三十週と言われているに過ぎない。医学研究と進歩の御蔭でそれはだんだん減って来ましたが。今日では二十週目の胎児でも生きられるようになりました。人間はこのペースで続けて頑張ったら、二十一世紀に入って、およそ十週目の胎児でも成育できるようなものではないかと期待されています。もし試験官ベビーが受胎の時点からずっと成育できるとしたら、胎児の生命力は受胎時まで下がる訳です。

私達にとって、このことは大切だと思います。あるレポートには次の話を書いてありました。多くの法律には胎児の生命についていろいろな文章がよく出て来ています。例えば、生命力はまだ生まれ出ない胎児の人間性、また、生きる権利を設定する重要な点となっている。しかし、その生命力も、すぐれた機械やお医者さん、看護婦さんの尽力、また胎児をめぐる実験データなどで支えられているのであって、胎児自身が持つ力ではないと言われています。ですから、生命力をして人間であるか否かを問うことは、不合理な事ではないでしょうか。

中絶をしようとしている母親はおなかの子がただのものと考えています。たくさんの人々はへその緒を切るまで人間ではないと考えています。私にはまったく理解ができません。生むつもりで女性自分の子を「私の赤ちゃん」と呼んでいます。中絶というのは人間の命を軽く考えさせます。

胎児の成長は人間に違いはないのです。妊娠一ヶ月半：妊卵の大きさは0.4cmで、長い尾をもつて、肝臓と心臓の隆起をみることが出来ます。妊娠二ヶ月半：胎児の身長は3〜4cm、頭、耳、眼、口が生じ、眼は側方を向くこともあります。妊娠三ヶ月半：身長9〜10cm、体重25〜35グラム、男女別が可能となります。妊娠四ヶ月半：赤ちゃんの身長は16〜18cm、体重100グラムです。それから、写真の妊娠二十一週目に生きて生まれた赤ちゃんは人間に違いありません。私達の心の中にはなぜ事実を認めたくないでしょうか。もし生まれたいない赤ちゃんの生きる権利を認められず、なぜ黙っているのでしょうか。

# 青年の一言

熊 理恵

子どもは親を通ってくるけれども、親のものではなく、子どもには、子どもの考えがあるということも多く、子どもには、子どもにだけ聞いてほしいです。神さまは、息をひきとる直前の老人を愛していらつしやるように母親の胎に宿ったばかりの赤ちゃんをも愛していらつしやいます。どういう状況であったとしても「生みたい」と思う心を全ての人にもっていただけたらと思います。

若い生命

える機関

になって下さいませんか？

11〜12週目の胎児のモデル 【目的：胎児の人間性を知らせること】

『若い生命』がいつか、どこかに、胎児の命を助けてくれるかもしれません。

中絶に反対する運動：

『若い生命』のプロジェクトは、神の美しい造形である11〜12週目の胎児をプラスチックで模造したものです。医者モデルからかたどられた「若い生命」によって胎児の驚くべき発達がわかります。これらのモデルを以下に配ることによつて、公教育をより進めることができます。

『若い生命』 11週から12週の胎児  
心臓は鼓動している。  
(18〜25日目より)  
40日目には脳波の出ていることも認められる。  
顔をしかめたり、呑みこむ動きをし、こぶしを作ることも出来る。  
指紋も出来、足で蹴る動作も出来る。  
熱、接触、光、音を感じ分ける。  
親指をしゃぶる。  
体の全機能が活動している。  
体重は28&位、身長は6〜8センチ位。  
大人の掌にはまる位の大きさ。

1 近所、学校、教会、青年会、クラブなどで、プロ・ライフ・ムーブメントのグループをつくって話し合いをすること。  
2 プロ・ライフ材料 (NEWS、パンフレット、「若い生命」セット、ビデオ)を回すこと。目的が一つ：中絶をやめること。  
3 あなたの力が必要です。今日だけ、日本で、8000人の子供達が密殺されました。

学校（プレゼンテーション中に）  
教会／お寺（信者一人一人に）  
立法機関  
学校のカウンセラー  
教師  
聖職者  
ソーシャルワーカー  
医者  
中絶を考える婦人たち  
中絶にかわる方法を考

あなたも声なき胎児の声

あなたも声なき胎児の声